

発行

公益財団法人 足利市民文化財団
栃木県足利市本城3-2145
(足利市教育委員会事務局文化課内)
電話 0284-20-2229

第16回 民俗芸能大会



大山祇神社
太々神楽保存会

足利市八木節連合会・
足利女子高等学校ダンス部



足利市民 文化財団とは

足利の持つ自然的・歴史的
環境や足利に関連する芸術
品・文化財等の保護、また芸
術・文化の振興、さらに文化
施設の整備の促進などを目的
に、昭和五十七年一月に発足
し、平成二十五年四月に新公
益法人制度に基づき、公益財
団法人の認定を受けました。

この間、事業を支える基盤
づくりとして、募金活動を進
めてまいりました。財団では、
この預金利子を事業資金とし
て活用しております。

今後とも、皆様のご支援、
ご協力をお願い申し上げます。

令和元年度

事業報告 及び 決算諸表承認

令和2年度 第1回の評議員会は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、書面での議決を行い、令和元年度の事業報告及び決算が承認されました。

事業報告

▽足利市内の文化財

紹介・啓発事業

市内の文化財の周知や認識を深め、文化財の保護・活用の推進を図るため、文化財の写真パネルを地区文化祭等の市内イベント時に貸出しました。

- 写真パネル貸出 九十七枚
- 各地区文化祭等 十四件
- 写真貸出 十四件
- 出版社等 十四件

▽美術品・文化財の収集、展示事業

当財団は、足利にゆかりのある貴重な美術品の保存及び保護を目的とした収集を行ってまいりましたが、その所蔵している美術品、文化財等の理解と認識を深めてもらうため、所蔵品展を開催しました。



所蔵品展チラシ

●所蔵品展 「武人の文化」

堀川國廣、下坂継正、鈴木慶雲、源景国、鎌田魚妙、田崎草雲ほか作品
 期間 令和二年一月二十五日(土)～二月九日(日)
 会場 足利市立美術館
 展示数 二十七点
 入場者 千七百二人

▽地域の芸術・文化活動、文化財保護、自然環境保全活動を行う団体等に対する助成事業

次の事業に協力をしました。

○足利薪能・薪狂言

開催日 令和元年九月七日(土)、八日(日)
 主催 足利能(薪能)実行委員会
 会場 鏝阿寺境内、足利市民会館大ホール

○民俗芸能大会

開催日 令和元年九月二十九日(日)
 主催 民俗芸能大会実行委員会
 会場 市民プラザ・文化ホール

○足利市民文化祭、優秀作品展

期間 令和元年十月五日(土)～十一月二十四日(日)

●令和二年一月二十五日(土)～二月九日(日)

主催 足利市民文化祭運営協議会
 会場 足利市民会館 他

○地区文化祭等

期間 令和元年五月～十一月
 主催 各地区文化祭実行委員会等
 会場 織姫公民館 他
 開催 十三地区

○各種団体への助成

市内の芸術・文化団体の自主的活動等を支援するため、十九団体に対し、文化活動の費用の一部を助成しました。

○伝統芸能保存活動への支援

●令和元年度八木節後継者育成事業
 期間 令和元年五月三十一日(金)～九月二十日(金)
 主催 足利八木宿八木節保存会

○自然環境保全活動への支援

●ゲンジホタル等養殖・保護・啓発事業
 期間 平成三十一年四月一日～令和二年三月三十一日

主催 名草源氏ホタル保存会
 場所 名草下町養殖池、名草下町自治会館

●カタクリ群生地保護事業

期間 平成三十一年四月一日～令和二年三月三十一日
 主催 名草観光協会カタクリ部会
 場所 名草上町藤坂地区、田の澤地区

▽芸術・文化に関する情報提供

○足利市民文化財団報第三十七号の発行

市民と財団の共通の広場として足利市民文化財団報を発行し、市内の全世帯に配布しました。
 発行 令和元年九月一日
 部数 五万八千四百六部

○インターネットの活用

ホームページをリニューアルいたしました。
 新しいURLは、
<https://ashikaga-bunkazaidan.com/>
 です。
 これからも、いろいろな機能を加え充実させて行きます。



▽案内板めぐり

文化財団では、文化財を説明する案内板を市内各所に設置していますが、今回からその文化財を御紹介していきます。

第1回 大岩毘沙門天

大岩毘沙門天は、天平17年(745年)に行基上人によって開かれ、聖徳太子が製作した毘沙門天(多聞天)を祀ったのが始まりとされております。聖武天皇より「大岩山多門院最勝寺」の山号を賜り、鎮護国家御祈禱の一大霊場となり、足利氏など名だたる武将からの信仰を集めてきました。聖徳太子が製作した他の二体を祀っている鞍馬山(京都市左京区) 信貴山(奈良県生駒郡)とともに日本三大毘沙門天の一つとされています。



大岩毘沙門天

令和二年度

事業予定

本財団の設立趣旨に沿った芸術品・文化財等の保護、芸術・文化活動振興事業などに資産からの運用益金を充てて事業を実施します。
今年度の主な事業は次のとおりです。

- 文化講演会の開催事業
令和三年一月中旬頃予定
- 文化財紹介・啓発事業
文化財写真パネルの作製・貸出
- 文化財の案内板、標識等の設置・管理
- 美術品・文化財の収集、展示、貸出事業
所蔵品展の開催
- 地域の芸術・文化活動、文化財保護、自然環境保全活動を行う団体等に対する助成・支援事業
市民文化祭への助成
- 地区文化祭への助成
- 各種団体への助成
- 自然的、歴史的環境保護事業への助成
- 芸術・文化に関する情報提供
文化財団報の発行
- インターネット等の活用

寄付のお願い

○寄付にご協力を

足利のもつ自然的・歴史的環境や関連する芸術品・文化財等の保護、また芸術・文化活動の振興等の諸事業を実施していくため、「足利市文化振興事業寄付金」にご協力いただける方は、事務局までご連絡をお願い申し上げます。
事務局・☎二〇一三二二九

▽皆様のご協力に感謝申し上げます。

○財団募金箱での寄付も可能です。
市民会館、市民プラザなどの施設に設置してある募金箱に、毎年、皆様から寄付をいただいております。みなさまのご協力に感謝申し上げます。



基本財産及び特定資産の増減及びその残高

文化財団の基本財産及び特定資産の増減及びその残高は次のとおりです。

(単位：円)

科目	平成30年度末残高	令和元年度増減額	令和元年度末残高
基本財産			
投資有価証券	499,953,000	0	499,953,000
定期預金	30,487,000	0	30,487,000
美術品	117,221,890	0	117,221,890
小計	647,661,890	0	647,661,890
特定資産			
投資有価証券	439,514,000	0	439,514,000
定期預金	116,602,122	0	116,602,122
小計	556,116,122	0	556,116,122
合計	1,203,778,012	0	1,203,778,012

所蔵品種別一覧

文化財団では、貴重な文化財等の足利市外への散逸を防ぐため、本市にゆかりのある貴重な美術品、文化財等の保護事業を進めています。7月末現在の文化財団の所蔵品は、下表のとおりです。

種別	員数	取得金額(円)
古文書等	2,219	7,459,890
刀剣・甲冑・銃	7	30,000,000
和鏡等	43	7,500,000
織物等	220	1,700,000
絵画等	78	70,562,000
計	2,567	117,221,890

芸術・文化活動団体等の 事業に助成します

芸術、文化の振興に寄与すると認められる団体に対し、その事業に必要な費用の一部を審査のうえ、助成します

対象団体

次の要件にすべて該当する団体

- 足利市内に住所又は活動の本拠を有する団体
- 一定の活動実績があり、広く市民に事業を公開する団体
- 団体規約等を有し、代表者が明らかな団体

対象事業

- 文化活動の成果発表事業（展覧会、発表会）
- 文化活動研修事業（講演会、講座など）
- 自然・文化財保護活動事業
- *営利、政治及び宗教活動を目的とする事業や参加者を会員等に限定する事業は対象となりません。

申請方法

所定の助成金申請書を9月30日(水)までに足利市民文化財団事務局に提出してください。

(申請書は財団事務局でお配りしているほか、財団ホームページからダウンロードできます。)

問合せ先

足利市民文化財団事務局 ☎20-2229

所蔵品展

- 開 期 令和3年1月下旬
- 会 場 市立美術館
- 展示作品 財団所蔵品の一部を展示

文化財写真の貸出

本財団では、市民の皆様には文化財の理解と認識を深めてもらうため、写真パネルの貸出をしています。地区文化祭等で展示を希望される方は、本財団事務局まで事前にご連絡をお願いいたします。 **《問合せ先 ☎20-2229》**

編集後記

昨年、市指定の重要無形文化財等の民俗芸能団体等が一堂に会し、第16回民俗芸能大会が行われました。表紙は、参加団体の演技の一場面です。

ここで改めて、「文化」について調べてみたいと思います。一般的な意味は、「人が作り上げてきた行動様式・生活様式の全体」とされています。語源を調べますと、漢語の「文治教化」（人を正しい方向に導いていくには、刑罰や威力ではなく、学問の力を用いることが大切である）に由来し、それが略され「文化」となったそうです。そして、明治時代になり、英語の「カルチャー」という言葉が入ってきた際に、この「文化」という言葉があてられました。「カルチャー」は「耕す」という意味を持つことから、「文化」も「心を耕す」という意味を含むようになったようです。「心を耕す」とは、凝り固まった心を柔らかくし、余裕を持たせることです。

モノも情報も溢れている現代社会では、何が真実か、何が必要かを見極める目を養うことが大切で、そのためには、本を読む、教養を積む、心を鍛える、掃除するなど心を耕すことが必要だそうです。心を耕している人は、生き生きとして輝いています。そんな人たちが溢れる街は、元気で、明るく、楽しそう、魅力的です。足利市民文化財団は、心を耕している人、これから耕そうとしている人を応援します。